

令和2年度 第3四半期（2020年10月～12月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=24 事業所(回答率 96%)

2. 調査対象期間

今期=2020年10月～12月

- ・前年同月比=前年同期(2019年10月～12月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2020年7月～9月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2021年1月～3月)の見通し

3. 調査期間 2020年12月11日～12月25日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が0より上の場合=景気は上向き

DI値が0の場合 =景気は横ばい

DI値が0より下の場合=景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲58.3 で、業種別にみると「建設業」が▲39.8 で最も高く、「小売業」が▲40.0 で続いている。

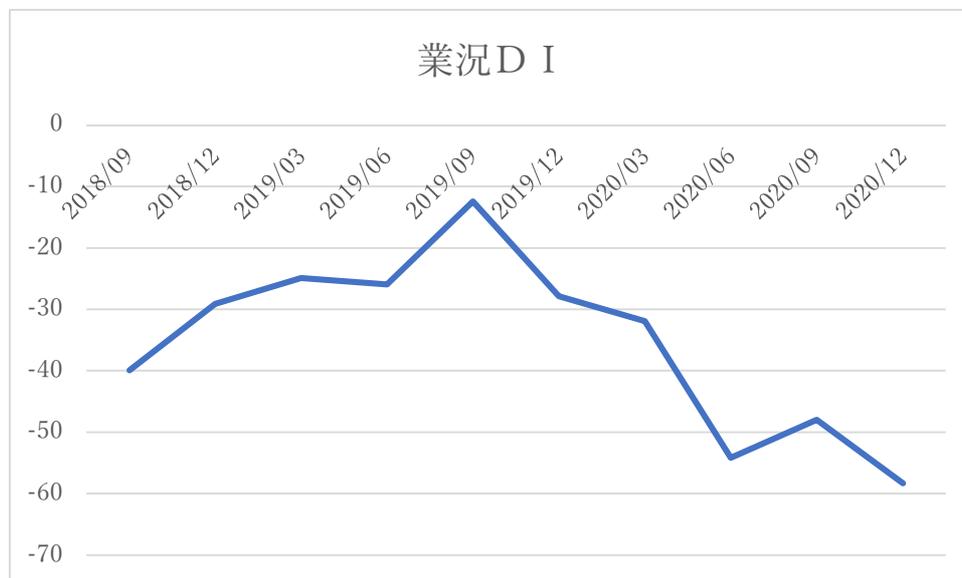
先行きは 8.3p改善の▲50.0 で、業種別では「建設業」「卸売業」で改善、「サービス業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2020年 7~9月期 (前回調査)		2020年 10~12月期 (今回調査)		2021年 1~3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲48.0	↗	▲58.3	↘	▲50.0	↗
建設業	▲19.8	↗	▲39.8	↘	▲19.8	↗
製造業	▲60.0	→	▲60.0	→	▲60.0	→
卸売業	▲60.0	↘	▲100.0	↘	▲60.0	↗
小売業	▲60.0	→	▲40.0	↗	▲40.0	→
サービス業	▲40.0	↗	▲50.0	↘	▲75.0	↘
(参考)全国全産業	▲56.5	↗	▲46.1	↗	▲44.1	↗
(参考)東北全産業	▲62.7	↗	▲48.7	↗	▲50.4	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



(2) 売上高DI

売上高DIの現況判断は▲54.1で、業種別にみると「サービス業」が▲24.8で最も高く、「建設業」が▲39.8で続いている。

先行きは横ばいの▲54.1で、「建設業」「卸売業」で改善、「サービス業」で減少となっている。

図表2 売上高DI

	2020年 7～9月期 (前回調査)		2020年 10～12月期 (今回調査)		2021年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲55.9	↘	▲54.1	↗	▲54.1	→
建設業	▲39.8	↗	▲39.8	→	▲19.8	↗
製造業	▲59.8	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
卸売業	▲80.0	↘	▲80.0	→	▲60.0	↗
小売業	▲60.0	→	▲40.0	↗	▲40.0	→
サービス業	▲39.8	↗	▲24.8	↗	▲75.0	↘
(参考)全国全産業	▲55.8	↗	▲46.0	↗	▲42.4	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (増加の回答割合) - (減少の回答割合)

(3) 採算DI

採算DIの現況判断は▲54.1で、業種別にみると「建設業」が▲19.8で最も高く、「小売業」が▲40.0で続いている。

先行きは4.1p改善の▲50.0で、「建設業」「卸売業」で改善、「サービス業」で悪化となっている。

図表3 採算DI

	2020年 7～9月期 (前回調査)		2020年 10～12月期 (今回調査)		2021年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲44.0	↗	▲54.1	↘	▲50.0	↗
建設業	▲20.0	→	▲19.8	↗	0.0	↗
製造業	▲40.0	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
卸売業	▲60.0	↘	▲80.0	↘	▲60.0	↗
小売業	▲60.0	→	▲40.0	↗	▲40.0	→
サービス業	▲40.0	↗	▲50.0	↘	▲75.0	↘
(参考)全国全産業	▲51.4	↗	▲43.1	↗	▲41.3	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

(4) 資金繰りDI

資金繰りDIの現況判断は▲12.5で、業種別にみると「建設業」が0.2で最も高く、「卸売業」「サービス業」が0.0で続いている。

先行きは20.8p悪化の▲33.3で、全ての業種で悪化となっている。

図表4 資金繰りDI

	2020年 7～9月期 (前回調査)		2020年 10～12月期 (今回調査)		2021年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲20.0	↗	▲12.5	↗	▲33.3	↘
建設業	0.2	↗	0.2	→	▲20.0	↘
製造業	▲60.0	↘	▲40.0	↗	▲60.0	↘
卸売業	▲20.0	→	0.0	↗	▲20.0	↘
小売業	0.0	↗	▲20.0	↘	▲40.0	↘
サービス業	▲20.0	↗	0.0	↗	▲25.0	↘
(参考)全国全産業	▲27.6	↗	▲21.6	↗	▲23.4	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

(5) 仕入単価DI

資金繰りDIの現況判断は▲20.8で、業種別にみると「製造業」が0.0で最も高く、「小売業」が▲19.8で続いている。

先行きは4.1p改善の▲16.7で、「建設業」「卸売業」で改善、「小売業」で悪化となっている。

図表5 仕入単価DI

	2020年 7～9月期 (前回調査)		2020年 10～12月期 (今回調査)		2021年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲8.0	↗	▲20.8	↘	▲16.7	↗
建設業	0.0	→	▲20.0	↘	0.0	↗
製造業	0.0	→	0.0	→	0.0	→
卸売業	▲20.0	↗	▲40.0	↘	▲20.0	↗
小売業	0.2	↗	▲19.8	↘	▲40.0	↘
サービス業	▲20.0	↘	▲25.0	↘	▲25.0	→
(参考)全国全産業	▲20.5	↘	▲19.1	↗	▲19.4	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

(6) 従業員DI

従業員DIの現況判断は0.2で、業種別にみると「建設業」「小売業」「サービス業」でやや不足となっている。

先行きは横ばいの0.2で、全ての業種で横ばいとなっている。

図表6 従業員DI

	2020年 7～9月期 (前回調査)		2020年 10～12月期 (今回調査)		2021年 1～3月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲3.6	↗	0.2	↗	0.2	→
建設業	0.8	↗	0.4	↘	0.4	→
製造業	0.0	↗	0.0	→	0.0	→
卸売業	0.2	↗	0.0	↘	0.0	→
小売業	▲19.8	↘	0.2	↗	0.2	→
サービス業	0.6	↗	0.5	↘	0.5	→
(参考)全国全産業	0.9	↗	7.5	↗	8.5	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
コロナ禍による景気低迷が騒がれているが、工事発注は継続的にある。しかし、技術職員の関係で受注したくてもできない場合が出てきている。	建設業
現場での人手不足により、遠方より人手を借りることがあるため、経費増になる場合がある。	製造業
年末年始の需要に期待したいところだが、コロナ禍で不安。原材料のコストが上昇傾向にあり、今後の収益に影響を与えそう。人手不足により、有給消化が厳しい。	卸売業
通夜・葬儀用の会食の料理がほとんどなくなり、持ち帰り用の折詰になり、少人数になったので売上が落ちている。	小売業
相変わらず人手不足で困っている。	サービス業